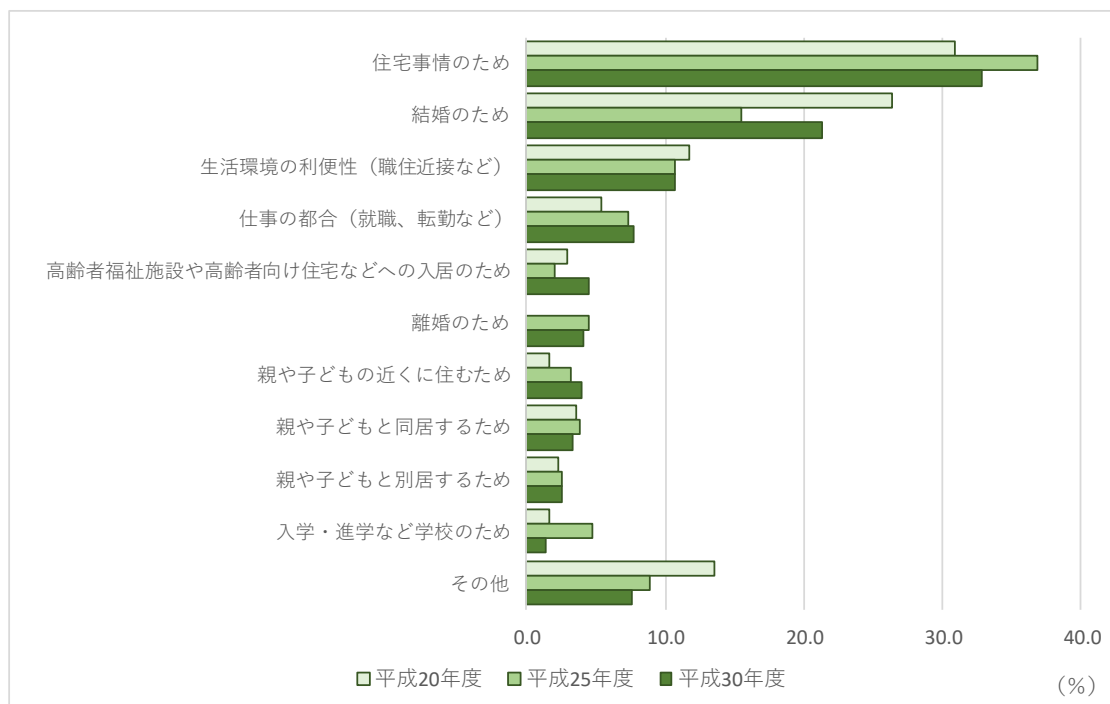


3 区間移動の状況

(1) 移動の理由

区間移動において、移動の理由全体に占める「住宅事情のため」の割合は32.8%と最も高く、「結婚のため」が21.3%、「生活環境の利便性」が10.7%と続いている。

移動の理由（区間移動）



移動の理由（区間移動）

(%)

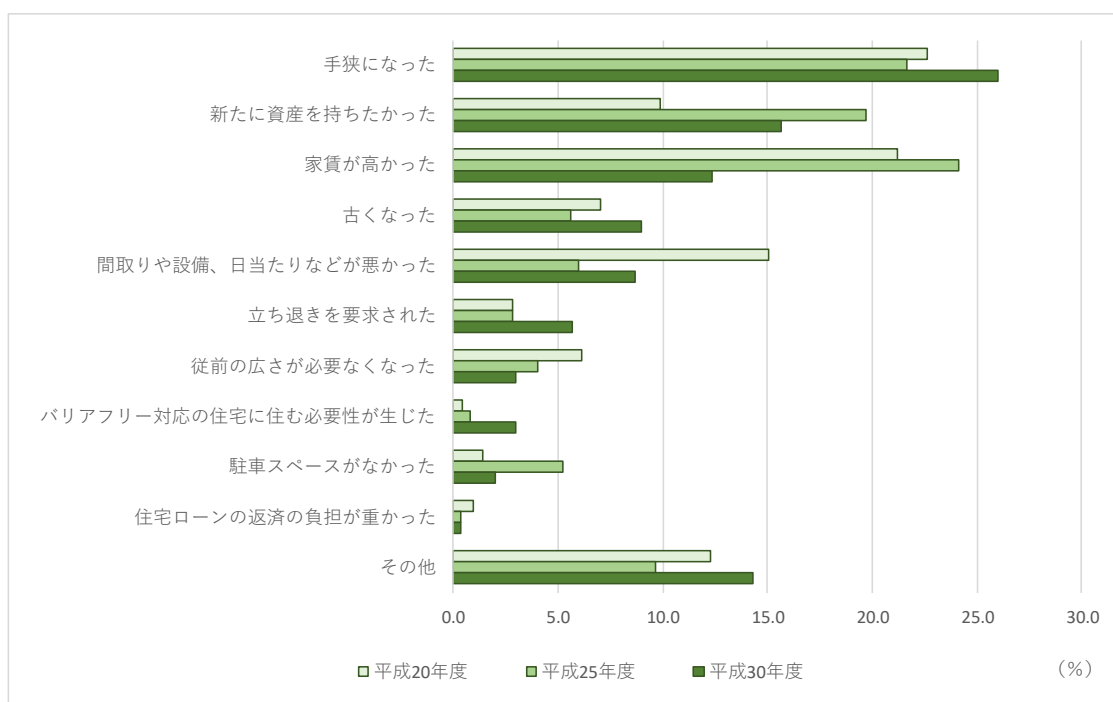
	平成20年度	平成25年度	平成30年度
住宅事情のため	30.9	36.8	32.8
結婚のため	26.3	15.5	21.3
生活環境の利便性（職住近接など）	11.7	10.7	10.7
仕事の都合（就職、転勤など）	5.4	7.3	7.8
高齢者福祉施設や高齢者向け住宅などへの入居のため	2.9	2.0	4.4
離婚のため	-	4.5	4.1
親や子どもの近くに住むため	1.7	3.2	4.0
親や子どもと同居するため	3.5	3.9	3.4
親や子どもと別居するため	2.3	2.5	2.6
入学・進学など学校のため	1.7	4.8	1.4
その他	13.6	8.9	7.6
n=	479	440	656

(2) 移動の理由>「住宅事情のため」

① 概況

移動の理由「住宅事情のため」に占める各内訳項目の割合をみると、「手狭になった」が最も高く、次いで「新たに資産を持ちたかった」、「家賃が高かった」が続いている。平成20年度や平成25年度に比べると、「手狭になった」が高い水準に、「家賃が高かった」は低い水準にある。

「仕事の都合」の内訳（区間移動）



「仕事の都合」の内訳（区間移動）

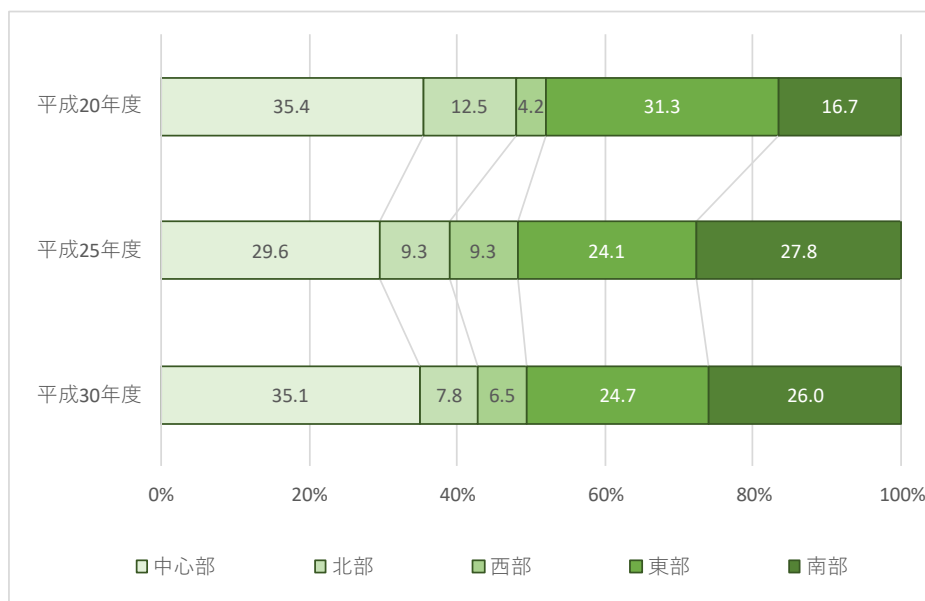
(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
手狭になった	22.6	21.7	26.0
新たに資産を持ちたかった	9.9	19.7	15.7
家賃が高かった	21.2	24.1	12.3
古くなった	7.1	5.6	9.0
間取りや設備、日当たりなどが悪かった	15.1	6.0	8.7
立ち退きを要求された	2.8	2.8	5.7
従前の広さが必要なくなった	6.1	4.0	3.0
バリアフリー対応の住宅に住む必要性が生じた	0.5	0.8	3.0
駐車スペースがなかった	1.4	5.2	2.0
住宅ローンの返済の負担が重かった	0.9	0.4	0.3
その他	12.3	9.6	14.3
n=	212	249	300

② 「手狭になった」について

移動の理由「住宅事情のため」のうち主な理由を「手狭になった」とした回答について移動先別にみると、全体に占める「中心部」の割合は3分の1を超えている。平成20年度と比べると、「南部」の割合は高い水準に、「東部」の割合は低い水準にある。

「手狭になった」と移動先（区間移動）



「手狭になった」と移動先（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
中心部	35.4	29.6	35.1
北部	12.5	9.3	7.8
西部	4.2	9.3	6.5
東部	31.3	24.1	24.7
南部	16.7	27.8	26.0
n=	48	54	77

前住地及び移動先の間係をみると、全体に占める「中心部」から「中心部」への移動の割合が最も高く、「東部」から「東部」への移動が続いている。

移動により地域ブロックが変わった割合は51.4%とほぼ半数であった。そのうち、「北部」から「中心部」への移動が最も高く、「西部」から「南部」への移動、「中心部」から「南部」への移動が続いている。

「手狭になった」と前住地及び移動先（区間移動）

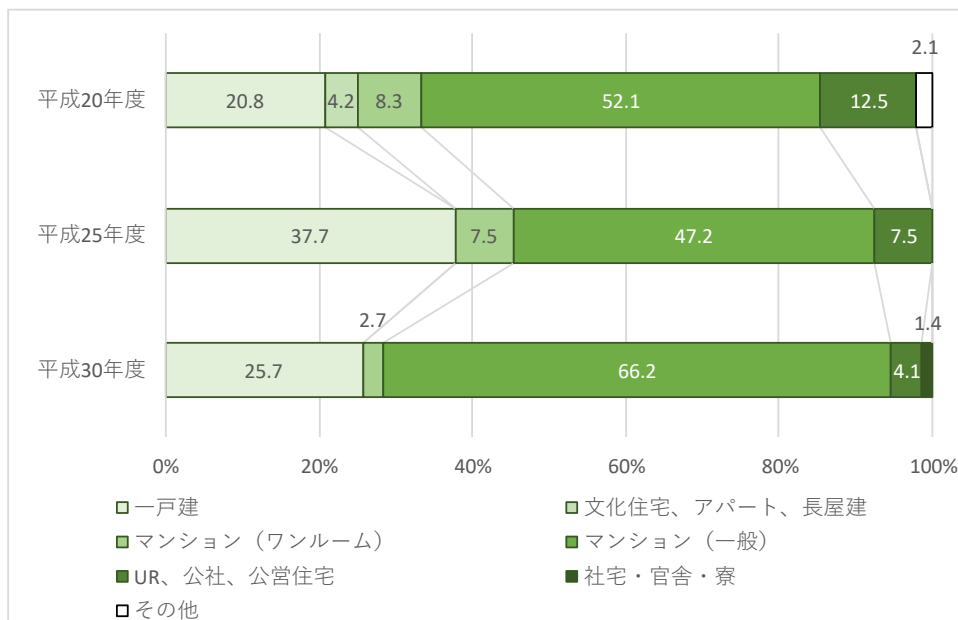
(%)

移動前 \ 移動後	中心部	北部	西部	東部	南部
中心部	18.9	0.0	4.1	5.4	6.8
北部	10.8	6.8	1.4	2.7	0.0
西部	2.7	1.4	1.4	0.0	8.1
東部	0.0	0.0	0.0	13.5	4.1
南部	2.7	0.0	0.0	1.4	8.1
計	35.1	8.1	6.8	23.0	27.0

n=74

移動後の住宅の種類別にみると、全体に占める「マンション（一般）」の割合は3分の2に迫っており、平成20年度及び平成25年度に比べ高い水準にある。

「手狭になった」と住宅の種類（区間移動）



「手狭になった」と住宅の種類（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
一戸建	20.8	37.7	25.7
文化住宅、アパート、長屋建	4.2	0.0	0.0
マンション（ワンルーム）	8.3	7.5	2.7
マンション（一般）	52.1	47.2	66.2
UR、公社、公営住宅	12.5	7.5	4.1
社宅・官舎・寮	0.0	0.0	1.4
その他	2.1	0.0	0.0
n=	48	53	74

移動前後における居住面積の変化をみると、全体に占める割合は「40 m²以上 60 m²未満」から「60 m²以上 80 m²未満」への変化が 26.2%と最も高くなっている。移動後に居住面積が 60 m²以上になった割合は4分の3に達している。

「手狭になった」と居住面積の変化（転入）

(%)

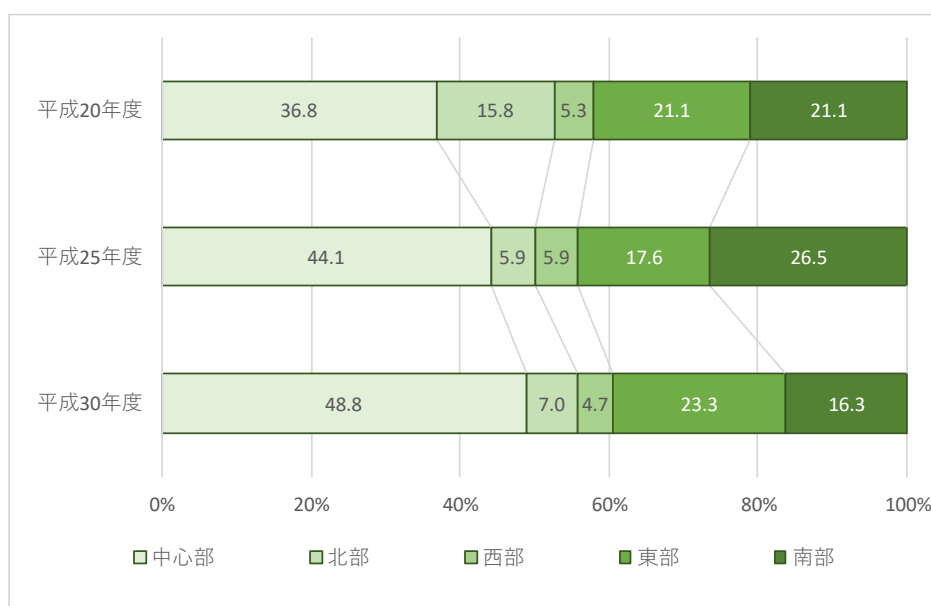
転出前 \ 転出後	20m ² 未満	20m ² 以上 40m ² 未満	40m ² 以上 60m ² 未満	60m ² 以上 80m ² 未満	80m ² 以上 100m ² 未満	100m ² 以上
20m ² 未満	0.0	6.6	0.0	1.6	0.0	0.0
20m ² 以上40m ² 未満	0.0	3.3	13.1	9.8	0.0	0.0
40m ² 以上60m ² 未満	0.0	0.0	1.6	26.2	9.8	8.2
60m ² 以上80m ² 未満	0.0	0.0	0.0	4.9	4.9	4.9
80m ² 以上100m ² 未満	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6
100m ² 以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
計	0.0	9.8	14.8	42.6	16.4	16.4

n=61

③ 「新たに資産を持ちたかった」について

移動の理由「住宅事情のため」のうち主な理由を「新たに資産を持ちたかった」とした回答について移動先別にみると、全体に占める「中心部」の割合は5割に迫っている。平成20年度以降の推移をみても、「中心部」の割合は上昇傾向にあり、市内中心部におけるマンションの供給及び需要の高さがうかがえる。その一方で、平成20年度と比べると「北部」や「南部」の割合は低い水準にある。

「新たに資産を持ちたかった」と移動先（区間移動）



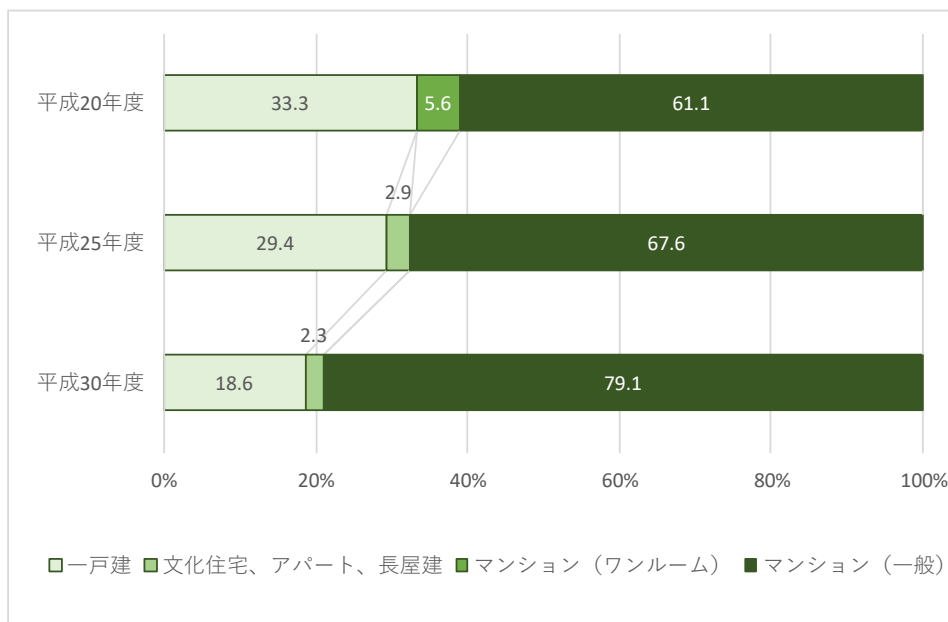
「新たに資産を持ちたかった」と移動先（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
中心部	36.8	44.1	48.8
北部	15.8	5.9	7.0
西部	5.3	5.9	4.7
東部	21.1	17.6	23.3
南部	21.1	26.5	16.3
n=	19	34	43

移動後の住宅の種類別にみると、全体に占める「マンション（一般）」の割合は8割に迫っており、平成20年度以降、上昇傾向にある。

「新たに資産を持ちたかった」と住宅の種類（区間移動）



「新たに資産を持ちたかった」と住宅の種類（区間移動）

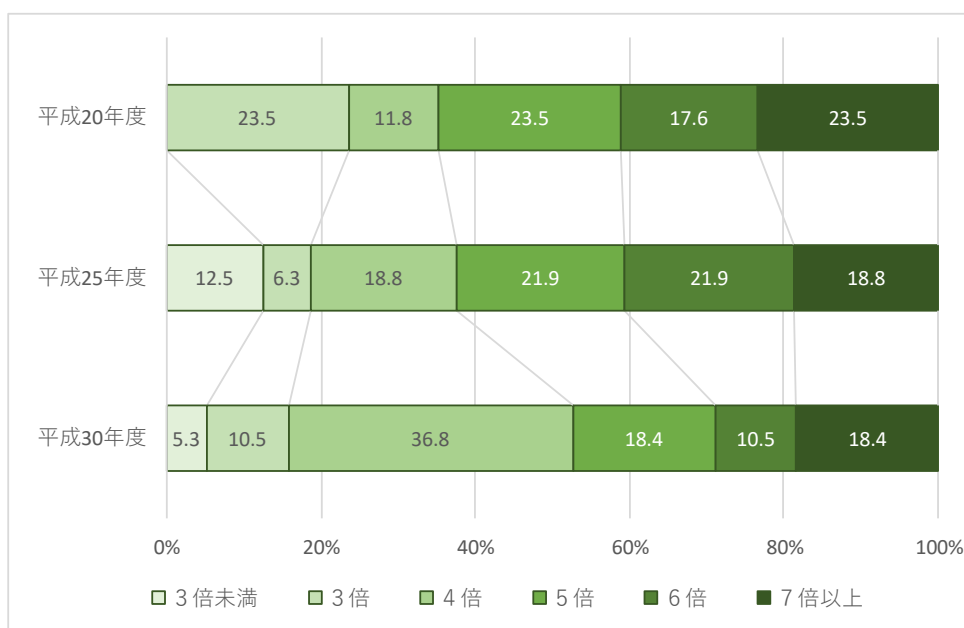
(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
一戸建	33.3	29.4	18.6
文化住宅、アパート、長屋建	0.0	2.9	2.3
マンション（ワンルーム）	5.6	0.0	0.0
マンション（一般）	61.1	67.6	79.1

n= 18 34 43

持ち家の購入価格（世帯年収の何倍か）をみると、全体に占める4倍以下（「3倍未満」、
「3倍」及び「4倍」）の割合は5割を超えており、平成20年以降の推移をみると上昇傾向
にある。転入、転出同様、区間移動においても持ち家について節約志向がうかがえる。

「新たに資産を持ちたかった」と持ち家の購入価格（区間移動）



「新たに資産を持ちたかった」と持ち家の購入価格（区間移動）

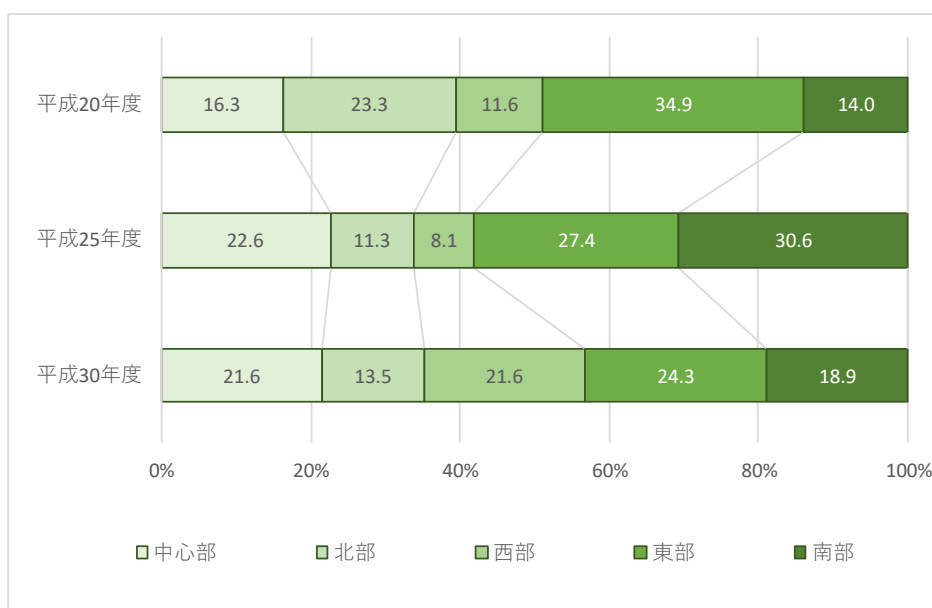
(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
3倍未満	0.0	12.5	5.3
3倍	23.5	6.3	10.5
4倍	11.8	18.8	36.8
5倍	23.5	21.9	18.4
6倍	17.6	21.9	10.5
7倍以上	23.5	18.8	18.4
n=	17	32	38

④ 「家賃が高かった」について

移動の理由「住宅事情のため」のうち主な理由を「家賃が高かった」とした回答について移動先別にみると、全体に占める「東部」の割合が最も高いが、平成20年度以降の推移をみると低下傾向にある。

「家賃が高かった」と移動先（区間移動）



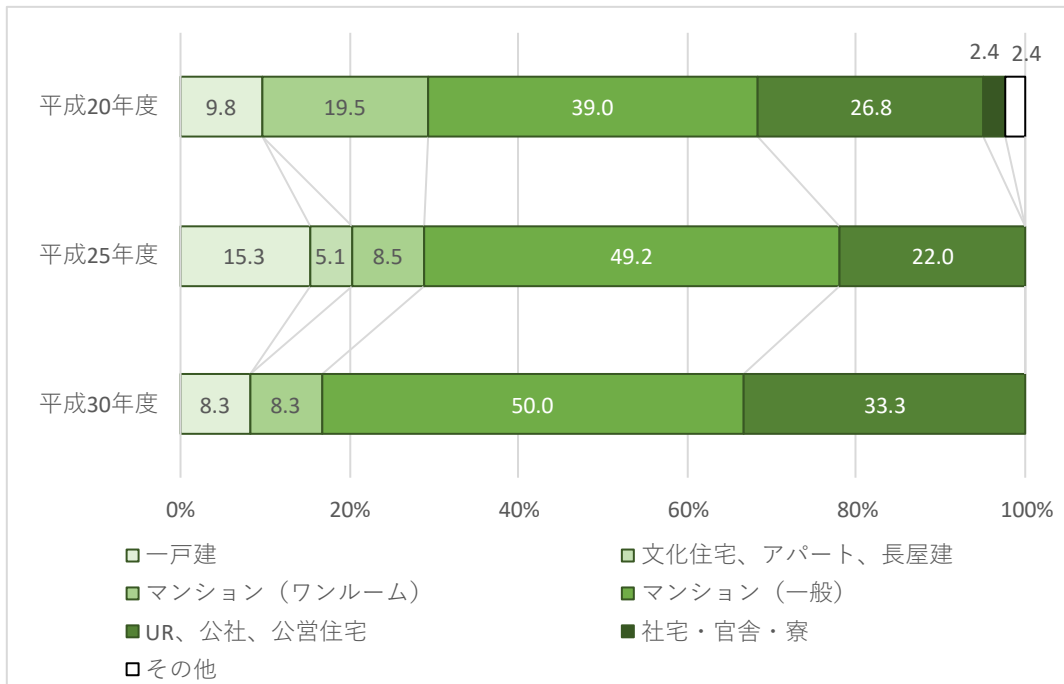
「家賃が高かった」と移動先（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
中心部	16.3	22.6	21.6
北部	23.3	11.3	13.5
西部	11.6	8.1	21.6
東部	34.9	27.4	24.3
南部	14.0	30.6	18.9
n=	43	62	37

移動後の住宅の種類別にみると、全体に占める「マンション（一般）」の割合は5割に達しており、平成20年度以降の推移をみても上昇傾向にある。

「家賃が高かった」と移動後の住宅の種類（区間移動）



「家賃が高かった」と移動後の住宅の種類（区間移動）

(%)

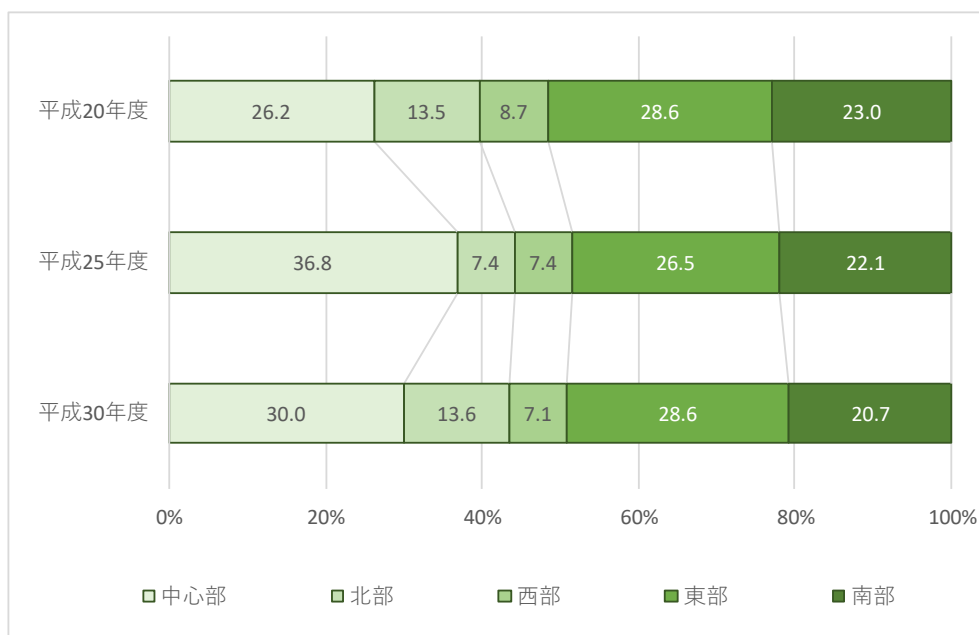
	平成20年度	平成25年度	平成30年度
一戸建	9.8	15.3	8.3
文化住宅、アパート、長屋建	0.0	5.1	0.0
マンション（ワンルーム）	19.5	8.5	8.3
マンション（一般）	39.0	49.2	50.0
UR、公社、公営住宅	26.8	22.0	33.3
社宅・官舎・寮	2.4	0.0	0.0
その他	2.4	0.0	0.0
n=	41	59	36

(2) 移動の理由>「結婚のため」

① 「結婚のため」と移動先

移動の理由を「結婚のため」とした回答について移動先別にみると、全体に占める「中心部」の割合が3割に達しており最も高く、「東部」、「南部」が続いている。

「結婚のため」と移動先（区間移動）



「結婚のため」と移動先（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
中心部	26.2	36.8	30.0
北部	13.5	7.4	13.6
西部	8.7	7.4	7.1
東部	28.6	26.5	28.6
南部	23.0	22.1	20.7
n=	126	68	140

② 「結婚のため」と前住地及び移動先

移動の理由を「結婚のため」とした回答について前住地及び移動先の関係を見ると、全体の7割が異なる地域ブロックへ移動している。「東部」から「中心部」への移動の割合が最も高く、「中心部」から「中心部」、「東部」から「東部」、「中心部」から「東部」が続いている。

「結婚のため」と前住地及び移動先（区間移動）

(%)

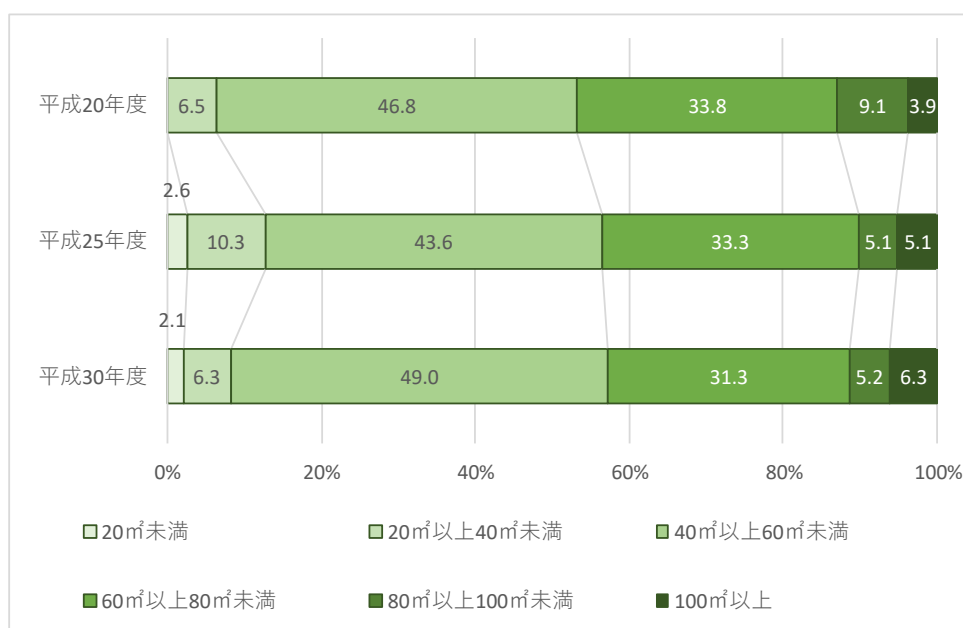
移動前 \ 移動後	中心部	北部	西部	東部	南部
中心部	10.1	6.5	2.9	8.0	5.8
北部	2.9	1.4	0.0	5.1	2.9
西部	2.9	0.7	1.4	0.7	2.2
東部	10.9	2.2	0.7	9.4	2.9
南部	2.9	2.9	2.2	5.1	7.2
計	29.7	13.8	7.2	28.3	21.0

n=138

③ 「結婚のため」と居住面積

移動の理由を「結婚のため」とした回答について居住面積別にみると、全体に占める 60㎡未満の割合は6割に迫っており、平成20年度以降やや上昇傾向にある。

「結婚のため」と居住面積（区間移動）



「結婚のため」と居住面積（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
20㎡未満	0.0	2.6	2.1
20㎡以上40㎡未満	6.5	10.3	6.3
40㎡以上60㎡未満	46.8	43.6	49.0
60㎡以上80㎡未満	33.8	33.3	31.3
80㎡以上100㎡未満	9.1	5.1	5.2
100㎡以上	3.9	5.1	6.3
n=	77	39	96

④ 「結婚のため」と居住面積の変化

移動の理由を「結婚のため」とした回答について居住面積の変化をみると、「20 m²以上 40 m²未満」から「40 m²以上 60 m²未満」及び「60 m²以上 80 m²未満」への変化が目立つ。移動後に居住面積が 40 m²以上の割合は9割を超えるが、60 m²以上の割合は 44.0%に留まっている。

「結婚のため」と居住面積の変化（区間移動）

(%)

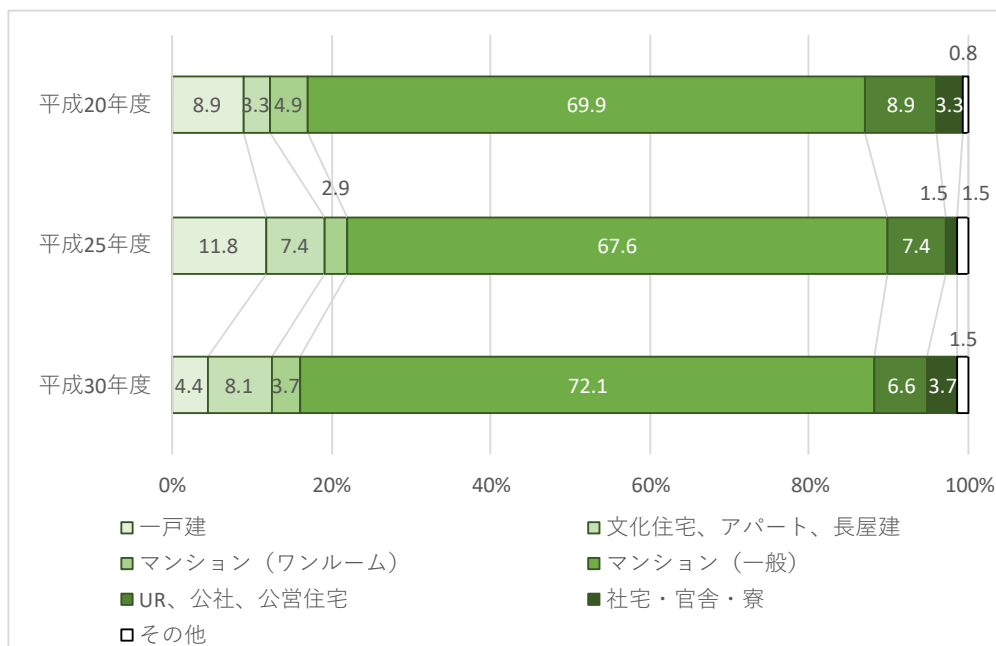
移動前 \ 移動後	20m ² 未満	20m ² 以上 40m ² 未満	40m ² 以上 60m ² 未満	60m ² 以上 80m ² 未満	80m ² 以上 100m ² 未満	100m ² 以上
20m ² 未満	2.2	2.2	1.1	2.2	0.0	0.0
20m ² 以上40m ² 未満	0.0	3.3	27.5	14.3	0.0	1.1
40m ² 以上60m ² 未満	0.0	0.0	5.5	7.7	2.2	1.1
60m ² 以上80m ² 未満	0.0	0.0	6.6	3.3	2.2	0.0
80m ² 以上100m ² 未満	0.0	1.1	4.4	2.2	0.0	2.2
100m ² 以上	0.0	0.0	2.2	3.3	0.0	2.2
計	2.2	6.6	47.3	33.0	4.4	6.6

n=91

⑤ 「結婚のため」と住宅の種類

移動の理由を「結婚のため」とした回答について移動後の住宅の種類をみると、全体に占める「マンション（一般）」の割合は7割を超えている。その一方で、一戸建は4.4%と、平成20年度以降最も低くなっている。

「結婚のため」と住宅の種類（区間移動）



「結婚のため」と住宅の種類（区間移動）

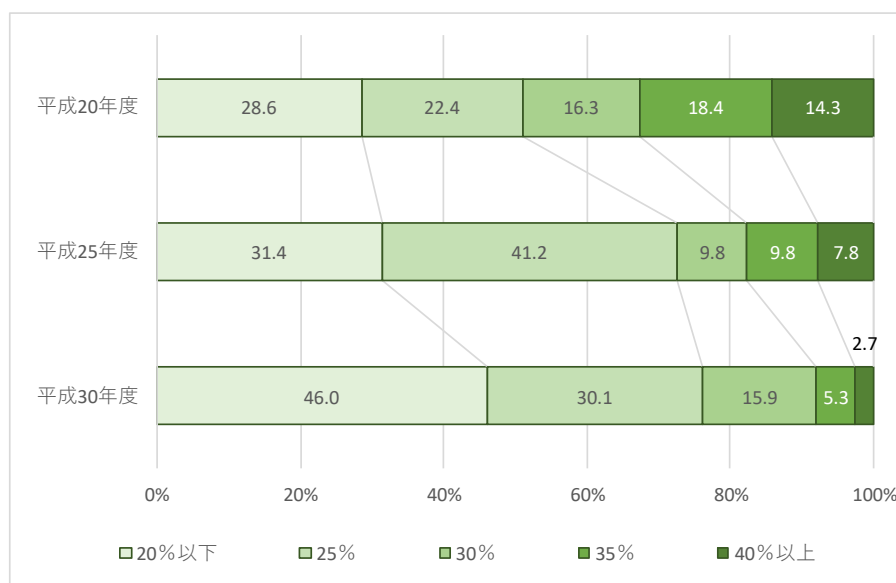
(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
一戸建	8.9	11.8	4.4
文化住宅、アパート、長屋建	3.3	7.4	8.1
マンション（ワンルーム）	4.9	2.9	3.7
マンション（一般）	69.9	67.6	72.1
UR、公社、公営住宅	8.9	7.4	6.6
社宅・官舎・寮	3.3	1.5	3.7
その他	0.8	1.5	1.5
n=	123	68	136

⑥ 「結婚のため」と家賃の割合

移動の理由を「結婚のため」とした回答について、世帯月収に占める家賃の割合をみると、全体に占める「20%以下」の割合が半分に迫っている。30%以下（「20%以下」、「25%」及び「30%」）の割合は9割を超えており、平成20年度以降上昇傾向にある。結婚に際して家賃を抑制する傾向がうかがえる。

「結婚のため」と世帯月収に占める家賃の割合（区間移動）



「結婚のため」と世帯月収に占める家賃の割合（区間移動）

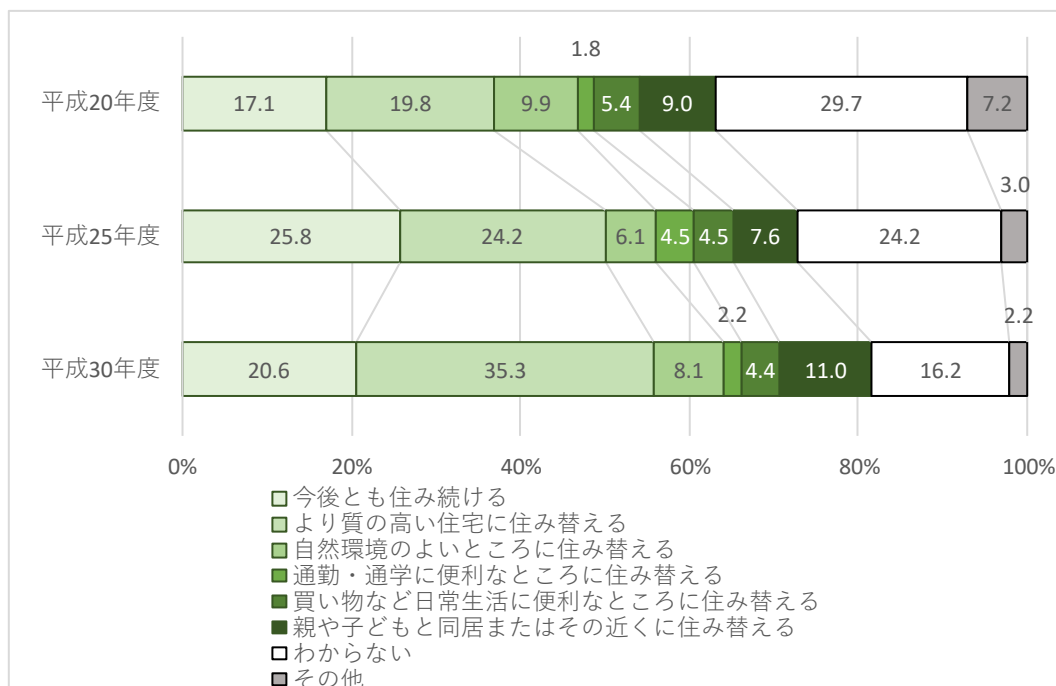
(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
20%以下	28.6	31.4	46.0
25%	22.4	41.2	30.1
30%	16.3	9.8	15.9
35%	18.4	9.8	5.3
40%以上	14.3	7.8	2.7
n=	98	51	113

⑦ 「結婚のため」と居住継続の意向

移動の理由を「結婚のため」とした回答について居住継続の意向をみると、全体のうち将来の住み替えを検討している割合は6割を超えており、平成20年度以降、この割合は上昇傾向にある。

「結婚のため」と居住継続の意向（区間移動）



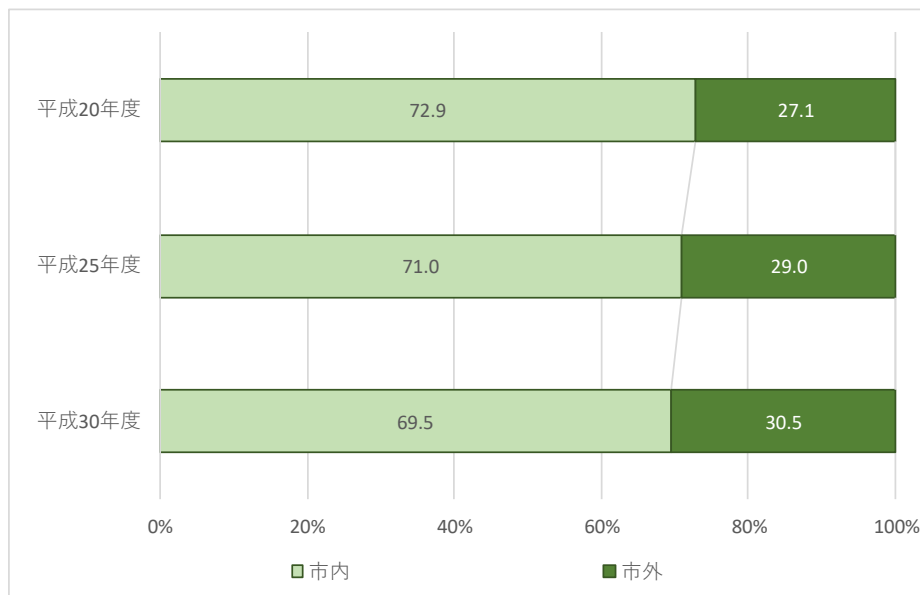
「結婚のため」と居住継続の意向（区間移動）

(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
今後とも住み続ける	17.1	25.8	20.6
より質の高い住宅に住み替える	19.8	24.2	35.3
自然環境のよいところに住み替える	9.9	6.1	8.1
通勤・通学に便利なところに住み替える	1.8	4.5	2.2
買い物など日常生活に便利なところに住み替える	5.4	4.5	4.4
親や子どもと同居またはその近くに住み替える	9.0	7.6	11.0
わからない	29.7	24.2	16.2
その他	7.2	3.0	2.2
n=	111	66	136

前項で将来の住み替えを検討している回答について居住希望地（大阪市内か市外か）をみると、市内の割合が7割近いが、平成20年度以降の推移をみると、やや低下傾向にある。

「結婚のため」と居住希望地（区間移動）



「結婚のため」と居住希望地（区間移動）

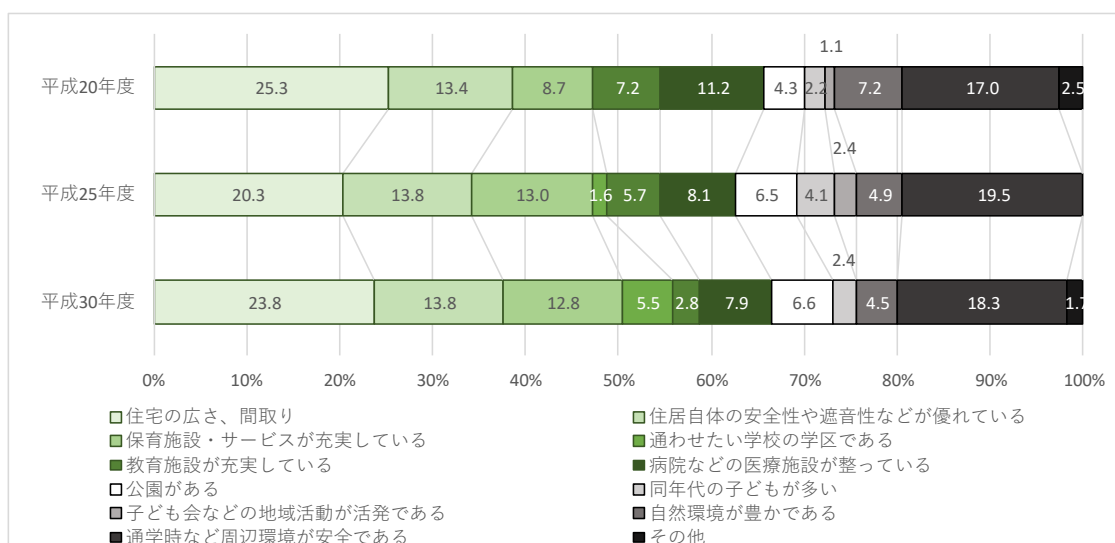
(%)

	平成20年度	平成25年度	平成30年度
市内	72.9	71.0	69.5
市外	27.1	29.0	30.5
n=	59	31	82

⑧ 「結婚のため」と重視する居住環境

移動の理由を「結婚のため」とした回答について重視する居住環境をみると、全体に占める割合は、住宅面では「住宅の広さ、間取り」及び「住宅自体の安全性や遮音性などが優れている」、施設・サービス面では「保育施設・サービスが充実している」、環境面では「通学時など周辺環境が安全である」が高い。

「結婚のため」と重視する居住環境（区間移動）



「結婚のため」と重視する居住環境（区間移動）

(%)

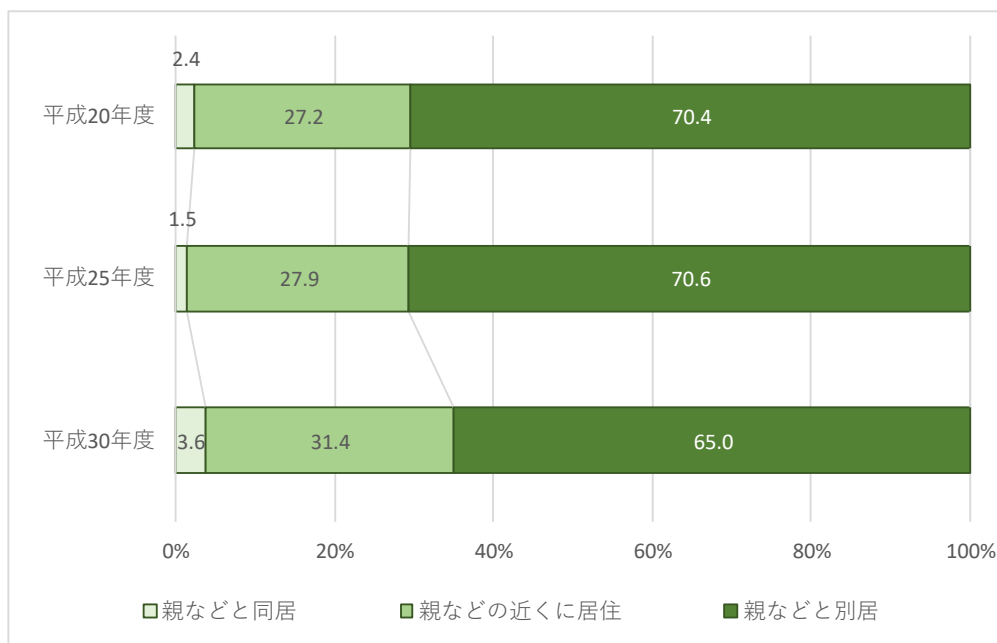
	平成20年度	平成25年度	平成30年度
住宅の広さ、間取り	25.3	20.3	23.8
住居自体の安全性や遮音性などが優れている	13.4	13.8	13.8
保育施設・サービスが充実している	8.7	13.0	12.8
通わせたい学校の学区である	-	1.6	5.5
教育施設が充実している	7.2	5.7	2.8
病院などの医療施設が整っている	11.2	8.1	7.9
公園がある	4.3	6.5	6.6
同年代の子供が多い	2.2	4.1	2.4
子ども会などの地域活動が活発である	1.1	2.4	0.0
自然環境が豊かである	7.2	4.9	4.5
通学時など周辺環境が安全である	17.0	19.5	18.3
その他	2.5	0.0	1.7
n=	277	123	290

注：複数回答

⑨ 「結婚のため」と親などとの居住の状況

移動の理由を「結婚のため」とした回答について親などとの居住の状況をみると、全体のうち親などと同居している割合は3割にとどまったが、平成20年度以降やや上昇傾向にある。

「結婚のため」と親などとの居住の状況（区間移動）



「結婚のため」と親などとの居住の状況（区間移動）

(%)

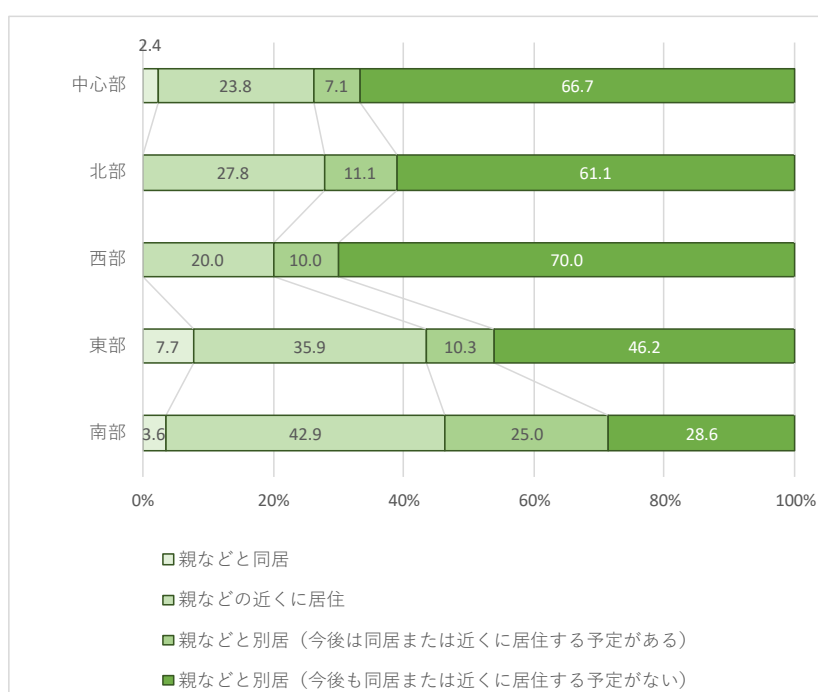
	平成20年度	平成25年度	平成30年度
親などと同居	2.4	1.5	3.6
親などの近くに居住	27.2	27.9	31.4
親などと別居	70.4	70.6	65.0
今後は同居または近くに居住する予定がある		11.8	12.4
今後も同居または近くに居住する予定がない		58.8	52.6
n=	125	68	137

★トピック4 市内各ブロックの特徴

ここまで、移動の理由を「結婚のため」とした回答について、移動先や移動後の居住面積などをみてきました。ここでは、市内の地域ごとに特徴があるのではないかとこの予想のもと、「大阪市内」というくくりではなく、市内ブロックごとに調査結果をみていきます。

まず、親などとの居住の状況をみると、「中心部」、「北部」、「西部」では全体に占める「親など同居」及び「親などの近くに居住」の割合が低く、「東部」及び「南部」では比較的高くなっています。

「結婚のため」と親などとの居住の状況（区間移動）



「結婚のため」と親などとの居住の状況（区間移動）

	(%)				
	中心部	北部	西部	東部	南部
親など同居	2.4	0.0	0.0	7.7	3.6
親などの近くに居住	23.8	27.8	20.0	35.9	42.9
親などと別居（今後は同居または近くに居住する予定がある）	7.1	11.1	10.0	10.3	25.0
親などと別居（今後も同居または近くに居住する予定がない）	66.7	61.1	70.0	46.2	28.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	n= 42	18	10	39	28

注：中心部…北区、福島区、中央区、西区、天王寺区、浪速区

北部…西淀川区、淀川区、東淀川区

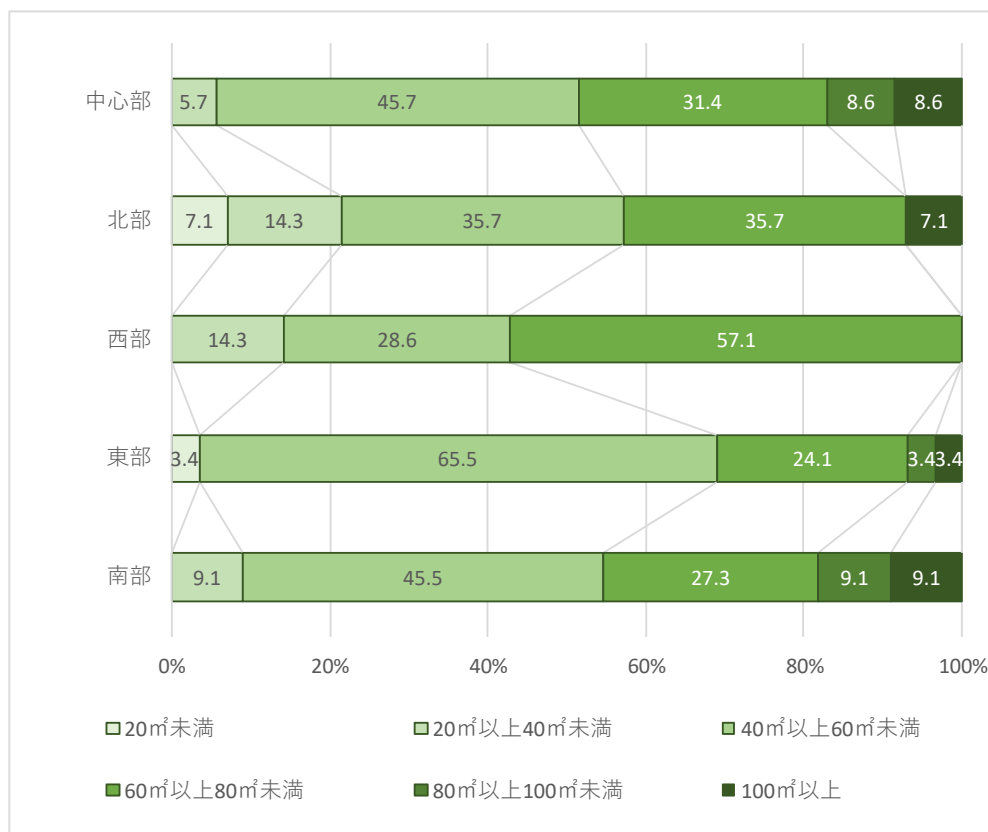
西部…此花区、港区、大正区、住之江区

東部…都島区、東成区、生野区、旭区、城東区、鶴見区

南部…阿倍野区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区

移動後の居住面積をみると、「東部」において全体に占める40㎡未満（「20㎡未満」及び「20㎡以上40㎡未満」）の割合が7割に迫っています。

「結婚のため」と居住面積（区間移動）



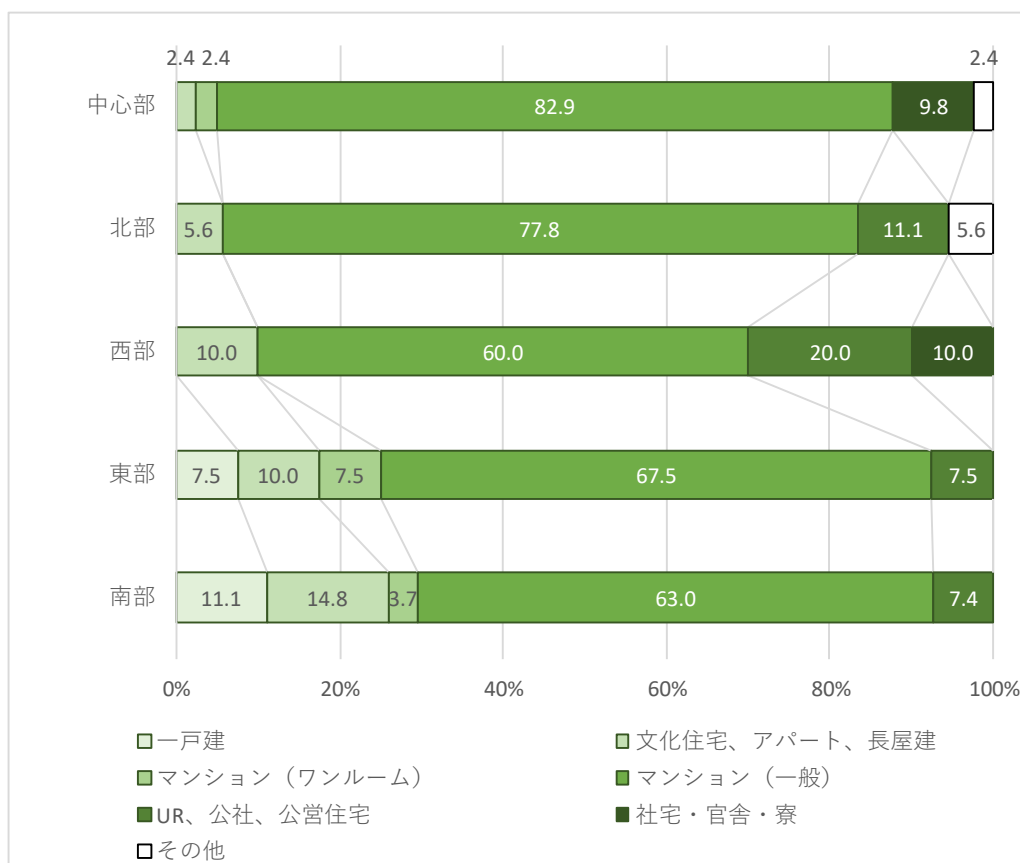
「結婚のため」と居住面積（区間移動）

(%)

	中心部	北部	西部	東部	南部
20㎡未満	0.0	7.1	0.0	3.4	0.0
20㎡以上40㎡未満	5.7	14.3	14.3	0.0	9.1
40㎡以上60㎡未満	45.7	35.7	28.6	65.5	45.5
60㎡以上80㎡未満	31.4	35.7	57.1	24.1	27.3
80㎡以上100㎡未満	8.6	0.0	0.0	3.4	9.1
100㎡以上	8.6	7.1	0.0	3.4	9.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n=	35	14	7	29	11

移動後の住宅の種類をみると、「東部」、「南部」において、全体に占める「一戸建」の割合が比較的高く、「マンション（一般）」の割合は低くなっています。

「結婚のため」と住宅の種類（区間移動）



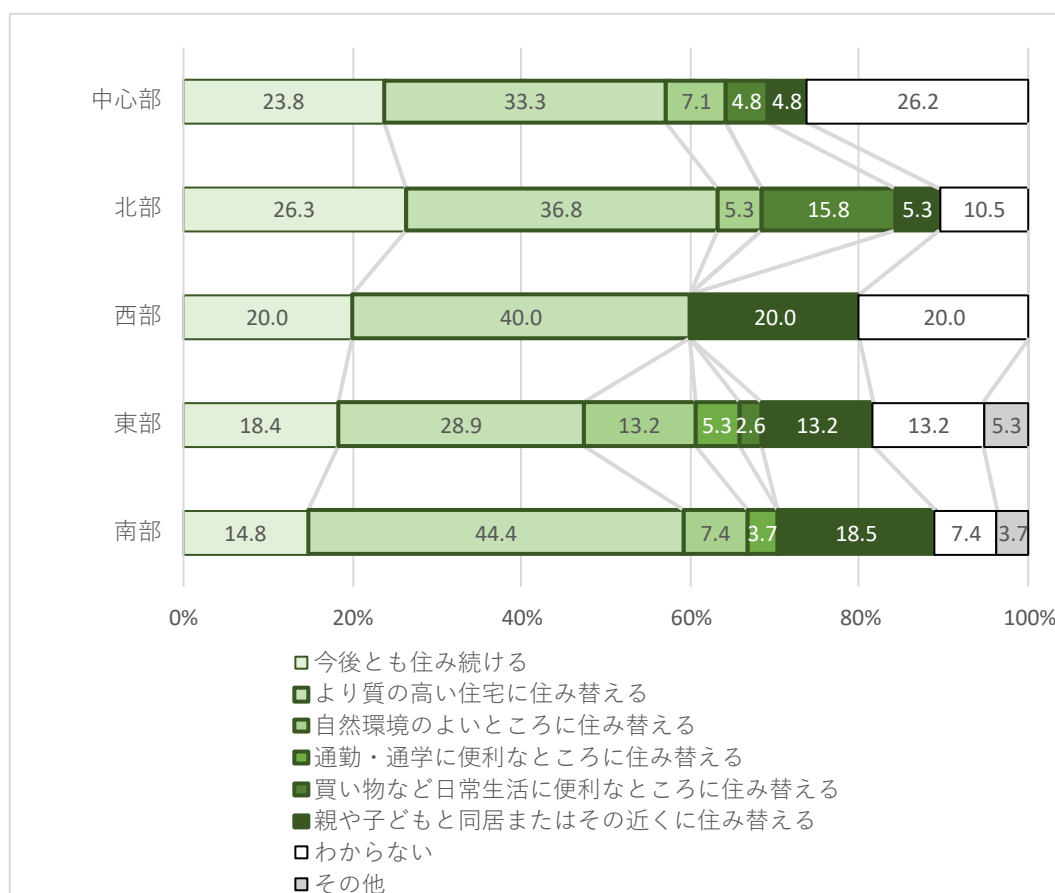
「結婚のため」と住宅の種類（区間移動）

(%)

	中心部	北部	西部	東部	南部
一戸建	0.0	0.0	0.0	7.5	11.1
文化住宅、アパート、長屋建	2.4	5.6	10.0	10.0	14.8
マンション（ワンルーム）	2.4	0.0	0.0	7.5	3.7
マンション（一般）	82.9	77.8	60.0	67.5	63.0
UR、公社、公営住宅	0.0	11.1	20.0	7.5	7.4
社宅・官舎・寮	9.8	0.0	10.0	0.0	0.0
その他	2.4	5.6	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n=	41	18	10	40	27

居住継続の意向をみると、全体に占める「住み続ける」との回答の割合は「北部」や「中心部」で高く、その一方で、「南部」では「住み替える」との回答の割合が4分の3に迫っています。

「結婚のため」と居住継続の意向（区間移動）

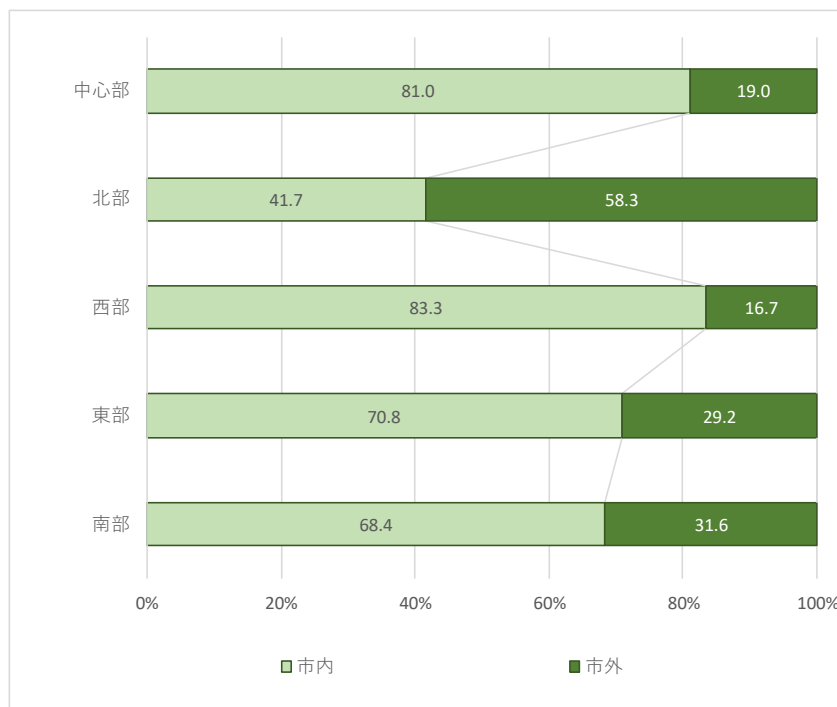


「結婚のため」と居住継続の意向（区間移動）

	(%)				
	中心部	北部	西部	東部	南部
今後とも住み続ける	23.8	26.3	20.0	18.4	14.8
より質の高い住宅に住み替える	33.3	36.8	40.0	28.9	44.4
自然環境のよいところに住み替える	7.1	5.3	0.0	13.2	7.4
通勤・通学に便利なところに住み替える	0.0	0.0	0.0	5.3	3.7
買い物など日常生活に便利なところに住み替える	4.8	15.8	0.0	2.6	0.0
親や子どもと同居またはその近くに住み替える	4.8	5.3	20.0	13.2	18.5
わからない	26.2	10.5	20.0	13.2	7.4
その他	0.0	0.0	0.0	5.3	3.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n=	42	19	10	38	27

「住み替える」との回答について、居住希望地が「市内」か「市外」ですが、以下の結果になりました。「中心部」では「市内」との回答が8割を超えていますが、「東部」や「南部」では「市外」の割合が3割程度と比較的高くなっています。

「結婚のため」と居住希望地（区間移動）



「結婚のため」と居住希望地（区間移動）

(%)

	中心部	北部	西部	東部	南部
市内	81.0	41.7	83.3	70.8	68.4
市外	19.0	58.3	16.7	29.2	31.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n=	21	12	6	24	19

地域ブロックごとにみてきましたが、結婚に伴い「中心部」に移動したグループは、親などと離れマンションに住み、今後も市内に住み続ける意向を示す人が多く、都会生活を満喫している印象を受けます。

その一方で、「南部」や「東部」に移動したグループは、一戸建やアパートなどに親などと同居ないし近くに住み、将来的な住み替えを検討している人が多い傾向にあります。住み替え先についても「市外」を希望する回答が3割程度を占め、将来の転出につながる可能性が考えられます。

なお、ここまで参考にしてきたデータはサンプル数が少ないため、その点ご留意いただければ幸いです。